

第3号様式 別紙

宿泊事業者等団体

名称	一般社団法人 三好市観光協会			
住所	徳島県三好市池田町サラダ1810-18			
代表者氏名	会長 谷口 宏			
連絡先	電話 : 0883-76-0877 FAX : 0883-76-0876			
構成員	<u>祖谷観光旅館</u> 、 <u>民宿平家の宿</u> 、 <u>カジヤ祖谷浪漫亭</u> 、 <u>民宿まつうら</u> 、 <u>民宿いや荘</u> 、 <u>ビジネスホテル阿波池田</u> 、 <u>和の宿ホテル祖谷温泉</u> 、 <u>旅の宿霧の峰</u> 、 <u>白地温泉小西旅館</u> 、 <u>かずら橋旅館大倉</u> 、 <u>民宿みなみ</u> 、 <u>大歩危温泉サンリバー大歩危</u> 、 <u>祖谷溪温泉ホテル秘境の湯</u> 、 <u>いやしの温泉郷ホテルかわせみ</u> 、 <u>かずら橋キャンプ村</u> 、 <u>龍宮崖コテージ</u> (構成者16者、うち補助対象事業者11者 (計画時14者))			
団体事業	具体的な内容			
	実施時期			
	必要な資金の額及びその調達方法			
個別事業	具体的な内容	Wi-Fi整備 8件、トイレの洋式化 4件、 タブレット端末導入 10件		
	実施時期	平成28年11月2日～平成28年12月26日		
	必要な資金の額及びその調達方法	補助対象経費合計 8,420,983円 補助金合計 3,188,000円		
全体稼働率の目標及び実績値		<事業開始前> (H27年度)	<目標> (H29年度)	<実績値> (H29年度)
	第1四半期 (4～6月)	23.69 (%) (23.96)	25.60 (%) (26.06)	40.8 (%)
	第2四半期 (7～9月)	34.67 (%) (34.39)	37.42 (%) (37.5)	44.4 (%)
	第3四半期 (10～12月)	27.04 (%) (28.12)	29.54 (%) (30.72)	45.3 (%)

	第4四半期 (1~3月)	13.25 (%) (13.54)	15.75 (%) (16.32)	32.1 (%)
目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	大きく目標達成ができた。対目標四半期平均値：155% 市内の大歩危・祖谷地域に所在する5つの宿泊施設を中心に組織される任意団体「大歩危・祖谷いってみる会」と、当協会及び三好市、徳島県等では、国のインバウンド政策の開始当初から、官民連携を誘客戦略の柱に掲げながら、海外現地営業や国内での海外向けプロモーション等を10数年前から積極的かつ継続的に取り組んできた成果が、ここ数年でようやく形として見えつつある。また、各種メディアでこの地域を取り上げて頂き露出効果も好影響している。特に大歩危・祖谷地域を中心に外国人宿泊者数が急増していることから、市内全体の外国人宿泊者数の増加を牽引しており、今回の目標達成につながった理由と思われる。			
合計外客宿泊者数の目標及び実績値		<事業開始前> (H27年度)	<目標> (H29年度)	<実績値> (H29年度)
	第1四半期 (4~6月)	1,677 (人) (1,662)	1,960 (人) (1,945)	3,290 (人)
	第2四半期 (7~9月)	1,377 (人) (1,365)	1,610 (人) (1,598)	2,716 (人)
	第3四半期 (10~12月)	1,857 (人) (1,844)	2,170 (人) (2,157)	4,566 (人)
	第4四半期 (1~3月)	1,078 (人) (1,078)	1,260 (人) (1,260)	2,146 (人)
目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	大きく目標達成ができた。対目標四半期平均値：163% ※上記の目標稼働率の達成理由と同じ。 市内の大歩危・祖谷地域に所在する5つの宿泊施設を中心に組織される任意団体「大歩危・祖谷いってみる会」と、当協会及び三好市、徳島県等では、国のインバウンド政策の開始当初から、官民連携を誘客戦略の柱に掲げながら、海外現地営業や国内での海外向けプロモーション等を10数年前から積極的かつ継続的に取り組んできた成果が、ここ数年でようやく形として見えつつある。また、各種メディアでこの地域を取り上げて頂き露出効果も好影響している。特に大歩危・祖谷地域を中心に外国人宿泊者数が急増していることから、市内全体の外国人宿泊者数の増加を牽引しており、今回の目標達成につながった理由と思われる。			

	る。
その他事業評価に関する事項及び当該事業評価を踏まえた次の一年間における事業の改善策	当市において、ここ数年、外国人宿泊者数が増加傾向にあるが、全国的にも同様に増加傾向にあり、観光地間での競争が激化している。このため、外国人旅行者の訪問先として当市を選んでいただくには、今後は、これまでの官民連携による取り組みの継続化だけでなく、外国人旅行者向けの受け入れ環境整備を質量共に改善していくことが重要である。このような中、今回、11施設を対象に Wi-Fi整備、トイレの洋式化、タブレット端末導入を進めることができたことで一定の効果が期待できる。今後、市内にまだ多くある未整備の施設に対する継続的なフォローが必要と思われる。

第3号様式 別紙

宿泊事業者等団体

名称	愛媛県旅館ホテル生活衛生同業組合			
住所	松山市道後湯之町6番8号			
代表者氏名	大木 正治			
連絡先	089-943-8342			
構成員	(株)時の名所 ふなや、ホテル葛城、ホテル花ゆづき 道後プリンスホテル、ホテル椿館、道後館 奥道後、壱湯の守 (構成員 7者、内補助対象事業者7者)			
団体事業	具体的な内容			
	実施時期			
	必要な資金の額及びその調達方法			
個別事業	具体的な内容	(1) WiFi設備 4件 (2) トイレの洋式化 2件 (3) サイトの多言語化 1件		
	実施時期	平成28年10月11日～平成28年12月31日		
	必要な資金の額及びその調達方法	補助対象経費 14,330,052円 補助金合計 5,869,000円		
全体稼働率の目標及び実績値		<事業開始前>	<目標>	<実績値>
	第1四半期 (4～6月)	60.7 (%)	62.2 (%)	68.4 (%)
	第2四半期 (7～9月)	61.2 (%)	62.7 (%)	60.5 (%)
	第3四半期 (10～12月)	65.0 (%)	66.9 (%)	63.6 (%)
	第4四半期 (1～3月)	66.1 (%)	65.1 (%)	53.7 (%)

<p>目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)</p>	<p>第2四半期、第3四半期は国体開催に伴う宿泊客を予定していたが、宿泊経費の面で道後の旅館やホテルを団体利用するには割高感を持たれ、さらに公共交通機関の利便性等から市内のホテルへの宿泊が多くみられ、その影響が出たものと思われる。第4四半期は冬季の寒波が公共交通機関や高速道路にも影響したことや、耐震工事のため一部施設の営業休止等、さらに近年の傾向として年末年始を始めとする団体客が減少し、個人或いは少人数による旅行の傾向が顕著に見られたものと思われる。</p>			
<p>合計外客宿泊者数の目標及び実績値</p>		<p><事業開始前></p>	<p><目標></p>	<p><実績値></p>
	<p>第1四半期 (4~6月)</p>	<p>8,042 (人)</p>	<p>8,522 (人)</p>	<p>9,651 (人)</p>
	<p>第2四半期 (7~9月)</p>	<p>6,149 (人)</p>	<p>6,994 (人)</p>	<p>7,031 (人)</p>
	<p>第3四半期 (10~12月)</p>	<p>10,942 (人)</p>	<p>11,445 (人)</p>	<p>10,660 (人)</p>
	<p>第4四半期 (1~3月)</p>	<p>10,289 (人)</p>	<p>10,763 (人)</p>	<p>13,523 (人)</p>
<p>目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)</p>	<p>行政や関係機関との連携によるアジア近隣諸国への宣伝効果の表れと思われる香港、台湾からの宿泊者が平均しており、さらに、11月に韓国チェジュ航空が再開し順調な伸びを示している。</p>			
<p>その他事業評価に関する事項及び当該事業評価を踏まえた次の一年間における事業の改善策</p>	<p>今回の補助事業による各旅館ホテルの設備整備等による快適性や利便性の向上もさることながら、施設としてはこの機会に宿泊客に安心と癒しを提供する従業員の意識改革に取り組む姿勢が見られた。訪日外国人が増加の傾向にある反面、入浴時に於ける浴槽内でのタオル使用等、入浴文化の違いによる国内客への不快感も生じており、パンフレット等での周知を図る必要がある。</p> <p>今の後予定としては8月にタッチザジャパン（台湾）9月に桃園（台湾）等、近隣国との更なる交流を深め相互間の観光事業の連携を図る。また、各旅館やホテル内の整備された各施設や道後の名所旧跡等をVRで紹介し一般公開するとともに、3月の札幌直行便の開通を機に関係機関と一層の連携を図りながら再度国内観光客の取り込みや、4月からの道後オンセナートの紹介等、日本最古と言われる道後温泉の広報活動に努める。</p> <p>ただ、今般施行される民泊制度の在り方が観光地の旅館ホテルに与える影響が懸念される。</p>			

第3号様式 別紙

宿泊事業者等団体

名称	香川県ホテル旅館生活衛生同業組合	
住所	〒760-0021 香川県高松市西の丸町10番15号 西の丸ビル3階	
代表者氏名	三矢 昌洋	
連絡先	087-851-2661	
構成員	ビーチサイドホテル鹿島荘、 <u>小豆島グランドホテル水明</u> <u>ホテルグリーンプラザ小豆島</u> 、 <u>チェレステ小豆島</u> <u>ホテルニュー海風</u> 、 <u>小豆島国際ホテル</u> <u>ベイリゾートホテル小豆島</u> 、 <u>こんぴら温泉湯元八千代</u> <u>貸切湯の宿ことね</u> 、 <u>トレストア白山</u> 、 <u>琴平花壇</u> <u>国民宿舎栗林山荘</u> 、 <u>四国高松温泉ニューグランデみまつ</u> (構成員 13者、 <u>うち補助対象事業者</u> 11者 計画時 13者)	
団体事業	具体的な内容	
	実施時期	
	必要な資金の額及びその調達方法	
個別事業	具体的な内容	(1) Wi-Fi整備 5件 (2) トイレの洋式化 4件 (3) 案内表示の多言語化 1件 (6) 客室の和洋式化 2件
	実施時期	平成28年9月9日～平成28年12月22日
	必要な資金の額及びその調達方法	補助対象経費 21,100,016円 補助金 8,792,000円

全体稼働率の目標及び実績値		<事業開始前>	<目標>	<実績値>
	第1四半期 (4~6月)	43.8 (%) (44.2)	51.9 (%) (44.4)	50.5 (%)
	第2四半期 (7~9月)	55.4 (%) (51.7)	63.1 (%) (55.8)	57.9 (%)
	第3四半期 (10~12月)	64.3 (%) (59.1)	72.5 (%) (62.7)	54.3 (%)
	第4四半期 (1~3月)	56.4 (%) (52.0)	65.2 (%) (56.7)	83.1 (%)
目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	<p>毎回、申し上げておりますが、集計を行う上で問題点は、ホテル・旅館、大中小の規模別の違いがあり、他の施設が良くても悪くても大規模一施設の数値の変化に大いに影響を受けます。また、外国人観光客の受け入れを積極的に行っていない施設もあり、温度差があります。当団体は当初申し上げた通り、広域でありますが全国的に見ると最小の県でありますので観光地がコンパクトにまとまっており観光のお客様は回遊が可能です。そこで、宿泊業のグループは「日本旅館協会36」「香川県ホテル旅館生活衛生同業組合104」の施設があり双方とも会員が重複しております。また香川県当局はLCCの韓国・中国・台湾の直行便の誘致増便を積極的に誘致しております。その結果は良好で2016年は伸び率全国1位となりましたが2017年は伸び率の全国順位は少し下がりましたが、延べ人数の順位は前年から一つ上がって22位となり、中四国では広島県に次いで16位でありました。今後はリピーター率の向上がこれからの課題と考えております。平成30年度は全国に先駆けて空港の民営化が控えており、目先の数字よりも目標に向かって前進するには、県全体の受け入れ態勢の向上を図ることが急務だと考えております。</p> <p>香川県にとってはインバウンドの増加が、ビジネス、国内観光の落ち込みをカバーできたと考えております。</p>			
合計外客宿泊者数の目標及び実績値		<事業開始前>	<目標>	<実績値>
	第1四半期 (4~6月)	2,132 (人) (2,104)	3,580 (人) (2,910)	10,414 (人)
	第2四半期 (7~9月)	3,770 (人) (3,738)	6,036 (人) (5,135)	8,945 (人)
	第3四半期 (10~12月)	2,648 (人) (2,592)	4,423 (人) (3,631)	11,070 (人)
	第4四半期 (1~3月)	5,253 (人) (5,202)	8,250 (人) (7,178)	7,350 (人)

目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	上記に記載した理由で、全体的に各期とも伸びていっています。
その他事業評価に関する事項及び当該事業評価を踏まえた次の一年間における事業の改善策	<p>インバウンドの増加は、ビジネス、国内観光の落ち込みをカバーし、地方都市としては全国的見ても好調であります。</p> <p>香川県当局が外国人観光客の誘客を図る施策を進めている間に、その受け入れ態勢の整備が急務と考えており、インバウンドに関しては受け入れ態勢が他県比べ非常に後れを取っていると考えています。四国ではトップの伸び率、客数もトップであります。リピーターの順位は下位に甘んじており、これが今後の課題の一つだと考えております。また、人口減少、高齢化により国内観光は下降線をたどっています。</p> <p>そこで、今のうちに外国人受け入れ態勢の改善を図るため今まで通り、各施設の館内外国語の表示を行うこと、防災非難の誘導の案内等を整備（標準化）行っていきたいと考えております。</p> <p>予定通り事業を進めて事業の目標を達成するように指導を行い、特に外客に関しては、県とタイアップをしておもてなしを推進しリピーター率を向上さすよう指導を行いたいと考えております。</p>